

当院における肝炎ウイルス対策チームの取り組み

◎吉田 隣生¹⁾、豊田 理恵¹⁾、大瀬 彩子¹⁾、栗田 哲至¹⁾、谷高 由利子¹⁾、福田 淳¹⁾
社会福祉法人聖隷福祉事業団 総合病院 聖隷三方原病院¹⁾

【はじめに】

静岡県では平成 23 年の肝炎対策基本指針策定に伴い地域肝炎治療支援者養成研修が開始され、その後平成 28 年の肝炎対策基本指針改正に伴い、名称を変更して現行の「肝炎医療コーディネーター養成研修会」がスタートした。当院においても、養成研修会を経て、静岡県肝炎医療コーディネーターを取得した 11 名（うち臨床検査技師 6 名）が肝炎ウイルス対策チームとして活動している。

肝炎ウイルス対策チームが発足したのは令和 2 年 4 月であり、医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療事務、臨床検査技師で構成され、2 ヶ月に 1 回カンファレンスを実施し、肝炎ウイルスのみならず肝疾患に関する業務の検討や啓発活動を行っている。

【当院の取り組み】

肝炎ウイルス対策チームとして、肝炎ウイルス検査陽性患者の拾い上げ、HBV 再活性化対策として、リスク薬使用患者に対する肝炎ウイルスマーカー検査実施有無の確認や未実施患者に対する電子カルテへのアラート発出、肝臓

新聞を作成・配布することによる患者への啓発活動や、肝炎検査陽性のうち未受診の患者に対する受診を促す手紙の発送等を実施している。

臨床検査技師は、肝炎ウイルス陽性患者の拾い上げと HBV 再活性化対策として、術前、入院時検査を含めた HBs 抗原及び HCV 抗体陽性患者を抽出し、カルテを確認して治療を開始していない患者に対し、カルテ記載にて肝臓内科への対診を促している。また、HBV-DNA 陽性患者で HBV 再活性化が疑われる患者に対しては主治医と肝臓内科医師へ電話連絡を実施している。

【まとめ】

肝炎ウイルス対策チームの活動により、肝炎ウイルス陽性者や再活性化患者の多くが肝臓内科へ対診され、活動に対する一定の効果が現れてきたと感じる。今後は、ウイルス性肝疾患への取り組みだけでなく、非ウイルス性肝疾患に対するアプローチについてもチームとして強化していく方針で有り、検査技師としてどのように関わっていけるか検討していきたい。